

みえ発！ボラパックⅡとは

平成23年4月～11月まで岩手県山田町へと36便・のべ648名のボランティアを運んだ「みえ発！ボラパック」。東日本大震災から1年が経ち、今年度の再始動にあたり、昨年度のノウハウを活かしつつ形態を変えての運行となりました。被災された方々が、ひととき災害から離れられる楽しい時間を作るお手伝いとして活動する「みえ発！ボラパックⅡ」は、山田町社協復興支え愛センター（旧山田町災害ボランティアセンター）の協力のもと、平成24年4月～12月まで22便のバスを運行し、述べ386名のボランティアを山田町へと運びました。



ボ
ラ
パ
ッ
ク
Ⅱ

【
ち
が
い
】

ポ
ラ
パ
ッ
ク

- [団体ボランティア派遣] と [個人ボランティア派遣] を実施
- 文化や運動、教養を通じて『ふれあい』を中心とした活動内容
- 参加しやすいよう週末を挟んだ4日間の行程（※例外あり）
- 事務局スタッフ添乗＋現地スタッフで活動を全面サポート

★ 団体ボランティア ★

現地で活動したい文化・教養などのプログラムをご提案の上、原則3名以上で事前に登録いただく団体ボランティア。現地のニーズとマッチング・日程調整を行い、参加いただきました。

★ 個人ボランティア ★

一般募集によるボランティア。団体の応募がない便、または団体バスの席に余裕がある場合の募集となりました。現地ニーズ・サロン活動・団体の活動補助を行っていただきました。

【
心
が
ま
え
】

被災地でボランティアする上で最も重要な心構えとして、昨年度の「ボラパック」では、自己責任・自己完結などのボランティアとしての原則や、チームの一員としての責任のある行動をお願いしていました。

今年度の「ボラパックⅡ」では、活動の中で被災された方々と直接お話する機会が多いため、接する上でのポイントをお伝えして出発に備えていただきました。

被災された方と接するうえで気を付けていただきたいこと

- そばにいる
 - ・相手の状態により、寄り添う事で安心感を与えられる
- 親身になって話を聴く
 - ・次々と質問することを避ける
 - ・話を横取りしない
 - ・相手の話を自己流に解釈しない
 - ・先入観を持たない
- 相手の感情を受け止める
 - ・悲しみや怒りは表に出すことが必要な感情であるため、代弁や同意をせず耳を傾ける
 - ・安易な慰め（元気づけ）はしない
 - ・相手の話に反論、批判、否定しない

事務局ボランティア

三重からできるボランティアとして、登録いただいている事務局ボランティアの皆さん。「ボラパックⅡ」でもみえボラの最も心強いサポーターとして様々な場面で活躍いただきました。

- ・事前ガイダンスの設営準備・司会進行・説明
- ・講習会の補助・指導
- ・「ボラパック」出発・帰着時の受付・お見送りお出迎え
- ・ビブス(ユニフォーム)の洗濯
- ・活動で必要となる物資の準備・キット作り
- ・ではってマップの修正

事務局ボランティア登録者数

146 人

